

## ふくい経済トピックス 〈人口編①〉

地域経済を支えるのは個人消費と企業活動、公共需要・投資の3つの経済活動で、これらの変化を踏まえた企業活動を行うことが重要です。

### 〈人口減少の加速〉

先日、平成22年10月に実施された国勢調査の速報値が発表された。これによると、福井県の人口が806,470人と平成17年の前回調査時より15,122人（年平均3,040人）減少した。

「人口減少社会」とよく耳にするが、福井県の人口のピークは平成12年の828,944人で、この10年間で2.71%減少したことになるが、特に平成17年からの5年間で1.84%と大幅に加速したことがわかる。

### 福井県総人口および世帯数の推移（昭和50年～平成22年）

調査年	人口			世帯数			1世帯あたりの人員
	増減数	増減率		増減数	増減率		
	人	人	%	世帯	世帯	%	人
昭和50年	773,599	29,369	3.95	198,933	15,704	8.57	3.89
昭和55年	794,354	20,755	2.68	212,744	13,811	6.94	3.73
昭和60年	817,633	23,279	2.93	224,295	11,551	5.43	3.65
平成2年	823,585	5,952	0.73	234,192	9,897	4.41	3.52
平成7年	826,996	3,411	0.41	246,911	12,719	5.43	3.35
平成12年	828,944	1,948	0.24	259,612	12,701	5.14	3.19
平成17年	821,592	▲ 7,352	▲ 0.89	269,577	9,965	3.84	3.05
平成22年	806,470	▲ 15,122	▲ 1.84	275,424	5,847	2.17	2.93

一方で、世帯数は依然として増加しつづけており、275,424世帯とこの5年間で5,847世帯（年平均1,170世帯）、2.17%増加している。（ただし増加率は低下）

つまり、「衣」「食」といった一人一人の基礎的消費は、市場が縮小傾向にあるが、「住」に関しては、県内でも拡大してきている。

この人口の変化をもたらすのは、出生、死亡による自然増減、就職や転勤等にもともなう転居による社会増減の二つの要素で、社会増減にも県外との転入出と県内市町間での移動に分けられる。

そこで、「福井県の人口と世帯推計」より、平成13年から22年までの10年間の変化を、その変動要因別にみてみたい（各年は前年10月～当年9月の変動を表す）。

### 〈自然減は1,461人に〉

まず、自然動態について、平成22年の出生数は6,938人で、この10年間で約千人減少し、

初めて7千人を割った。一方、死亡数は8,399人と年々増加を続け（平成21年を除き）、この10年間で約千五百人の増となっている。

市町別にみると、平成22年に自然増となったのは鯖江市のみで、福井市、敦賀市では、この10年で昨年初めて自然減となった。福井県全体でみると平成16年から自然減となり、平成22年には出生数と死亡数の差が1,461人と初めて千人を超えた。

#### 市町別人口・世帯数(平成17年・22年)

	平成22年速報値		平成17年確定値		平成17～22年の増減			
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口		世帯数	
					増減数	増減率	増減数	増減率
	人	世帯	人	世帯	人	%	世帯	%
県計	806,470	275,424	821,592	269,577	▲ 15,122	▲ 1.84	5847	2
福井市	266,831	97,339	269,144	93,694	▲ 2,313	▲ 0.86	3645	4
敦賀市	67,765	26,455	68,402	25,742	▲ 637	▲ 0.93	713	3
小浜市	31,346	11,475	32,182	11,136	▲ 836	▲ 2.60	339	3
大野市	35,300	10,775	37,843	11,230	▲ 2,543	▲ 6.72	▲ 455	▲ 4.05
勝山市	25,471	7,772	26,961	7,990	▲ 1,490	▲ 5.53	▲ 218	▲ 2.73
鯖江市	67,463	21,009	66,831	20,177	632	1	832	4
あわら市	29,995	9,732	31,081	9,658	▲ 1,086	▲ 3.49	74	1
越前市	85,648	27,597	87,742	27,916	▲ 2,094	▲ 2.39	▲ 319	▲ 1.14
坂井市	91,926	28,754	92,318	28,035	▲ 392	▲ 0.42	719	3
永平寺町	20,641	7,213	20,764	6,868	▲ 123	▲ 0.59	345	5
池田町	3,047	1,008	3,405	1,060	▲ 358	▲ 10.51	▲ 52	▲ 4.91
南越前町	11,553	3,471	12,274	3,542	▲ 721	▲ 5.87	▲ 71	▲ 2.00
越前町	23,168	6,729	23,995	6,670	▲ 827	▲ 3.45	59	1
美浜町	10,566	3,913	11,023	3,760	▲ 457	▲ 4.15	153	4
高浜町	11,064	4,044	11,630	4,014	▲ 566	▲ 4.87	30	1
おおい町	8,582	3,144	9,217	3,258	▲ 635	▲ 6.89	▲ 114	▲ 3.50
若狭町	16,104	4,994	16,780	4,827	▲ 676	▲ 4.03	167	3

#### 〈県内移動は4市に集中〉

では、社会増減の中で、県内市町間の移動はどうだろうか。この10年間の累計で、転入が転出を上回っているのは、福井市、敦賀市、鯖江市、坂井市の4市のみ。地域別にみると、嶺南では敦賀市への集中が起こりながらも嶺北への移動も活発で、丹南では全体的に均衡しながらも鯖江市への集中が起こり、奥越からの流出分が福井市と坂井市へ移動していることが推測される。

平成22年の、自然動態、社会動態を市町別に表したのが表2で、これを見ると、これまで人口が増加していた福井市、鯖江市、坂井市でも、県外への転出が、最大の減少要因であることがわかる。

市町別人口動態内訳（H21.10～H22.9）

	人口動態				年間増減
	自然動態	社会動態			
	増減	県内転入 出の増減	県外転出入 の増減	社会増減	
県計	▲ 1,461	0	▲ 1,910	▲ 1,910	▲ 3,371
福井市	▲ 35	288	▲ 908	▲ 620	▲ 655
敦賀市	▲ 8	103	▲ 30	73	65
小浜市	▲ 147	30	▲ 25	5	▲ 142
大野市	▲ 248	▲ 128	▲ 165	▲ 293	▲ 541
勝山市	▲ 158	▲ 64	▲ 94	▲ 158	▲ 316
鯖江市	30	125	▲ 220	▲ 95	▲ 65
あわら市	▲ 188	▲ 55	▲ 126	▲ 181	▲ 369
越前市	▲ 138	▲ 42	▲ 2	▲ 44	▲ 182
坂井市	▲ 115	38	▲ 221	▲ 183	▲ 298
永平寺町	▲ 63	5	▲ 31	▲ 26	▲ 89
池田町	▲ 44	▲ 40	▲ 12	▲ 52	▲ 96
南越前町	▲ 75	▲ 47	▲ 6	▲ 53	▲ 128
越前町	▲ 65	▲ 67	14	▲ 53	▲ 118
美浜町	▲ 75	▲ 74	12	▲ 62	▲ 137
高浜町	▲ 36	▲ 26	▲ 57	▲ 83	▲ 119
おおい町	▲ 8	▲ 27	▲ 24	▲ 51	▲ 59
若狭町	▲ 88	▲ 19	▲ 15	▲ 34	▲ 122

〈県外への転出は減少に〉

さて、県外からの転入や県外への転出についてみてみたい。近年、企業合併や支店、営業所の統廃合などが進んだことで、転入出の差は、平成21年に2,920人の出超まで拡大したが、平成22年には1,910人と大幅に縮小している。

そこで、この3年間の福井県への転入、転出について各地域別に集計したのが表3である。

転入、転出とも最も多いのは「近畿」で、次いで「国外・その他」、「関東」と続き、「北陸」と「東海」がほぼ同じ水準になっている。

しかし、平成20年から22年までの3年間で、その内容が変化しているので詳しくみてみたい。

平成20年は景気拡大状況の中で、関東、東海、近畿への転出が進み2,825人の出超となっているが、特に関東の1,075人（うち東京都597人）が突出し、愛知県、三重県なども高水準にあった。

平成21年には、県内においてもリーマンショックによる大手製造業の生産縮小により、日系外国人労働者、外国人研修生等で619人と大幅な出超が起こった。国内各地域への出超は前年

を下回ったものの、トータルでは2,920人の出超と大幅な人口減少を引き起こした。

平成22年に入ると、電子部品や自動車を中心とした生産回復が起これ、日系ブラジル人等の転入が増えたが、その他の産業では依然として低調であったため、中国等からの外国人研修生は減少し、前年に引き続き548人の出超となった。

一方で、県外大手企業が新規採用を手控えたことから、関東、近畿、東海への出超は大幅に減少し、トータルでは1,910人の出超と前年より1,000人減少した。

このように「景気」が良いと人口が減る、「景気」が悪いと消費額が減るという、どちらにしても地域の個人消費を対象にした産業には難しい状況が続く。

#### 地域別・県外転入出者数の推移

年	H20			H21			H22		
	転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減
合計	13,271	16,096	▲ 2,825	12,726	15,646	▲ 2,920	12,403	14,313	▲ 1,910
北海道・東北	443	403	40	429	460	▲ 31	472	373	99
関東	1,869	2,944	▲ 1,075	2,048	2,848	▲ 800	2,045	2,526	▲ 481
甲信越	382	419	▲ 37	430	353	77	318	317	1
北陸	1,615	2,000	▲ 385	1,662	1,927	▲ 265	1,491	1,887	▲ 396
東海	1,746	2,407	▲ 661	1,688	2,096	▲ 408	1,760	1,861	▲ 101
近畿	3,235	3,896	▲ 661	3,104	3,930	▲ 826	3,062	3,490	▲ 428
中国・四国	467	519	▲ 52	442	503	▲ 61	482	478	4
九州・沖縄	362	329	33	383	370	13	336	396	▲ 60
国外・その他	3,152	3,179	▲ 27	2,540	3,159	▲ 619	2,437	2,985	▲ 548

福井県の人口減少は続いているが、県外への「転出」が年間一万人以上、海外への「転出」が三千人あるということ、「福井県の良いところを知った人が毎年一万四千人増えている」と捉え、ビジネスチャンスにつなげていく取り組みが必要なのではないだろうか。

次号では、年齢別人口の変化について紹介したい。

(福井商工会議所所報 平成23年6月号掲載)